

【用語の定義】（要綱第2条）

- ◆ 使用水量 検針して得た水量をいう。
- ◆ 推定給水量 漏水がないと仮定した場合の水量で、前回、前々回又は前年同期における使用水量その他の事実を考慮して算出した水量をいう。
- ◆ 推定漏水量 使用水量から推定給水量を差し引いた水量をいう。
- ◆ 認定水量 使用水量から第4条に規定する軽減基準により算出する軽減水量を差し引いた水量をいう。
- ◆ 赤水等 上下水道局が行った配水管工事、洗管その他の原因により発生した濁り水をいう。

【認定対象】（要綱第3条）

- (1) 漏水を発見することが困難であったと認められる場所で漏水した場合。
- (2) 水道メーター取付部の故障により漏水した場合。
- (3) 地震、風水害、火災その他の災害により漏水した場合。
- (4) 赤水等の発生により放水した場合。

【軽減基準】（要綱第4条）

- (1) 前条第1号より漏水した場合は、推定漏水量の2分の1を軽減する。
（1立方メートル未満の端数が生じた場合は、その端数を切り捨てる。）
- (2) 前条第2号及び第3号により漏水した場合は、推定漏水量を軽減する。
- (3) 前条第4号により放水した場合は、1時間につき1立方メートル、貯水槽等の場合は、貯水槽容積の2倍を軽減する。
 - ◆ (1)により軽減する場合は、漏水が複数の検針月にまたがる場合であっても、当該検針月の使用水量のうちいずれか1回の検針月使用水量について適用するものとする。
 - ◆ (1)に規定する漏水の場合の認定水量は、推定給水量の2倍を限度とする。ただし、推定漏水量の2分の1を軽減して算出した認定水量が、最低水量の2倍以上の場合であつて、推定給水量の2倍を限度として算出した水量が最低水量の2倍以下の場合には、最低水量の2倍を認定水量とする。

【認定適用除外】（要綱第5条）

- (1) 蛇口、立上り管、水洗便所の器具等で漏水が容易に発見できると認められる箇所から漏水した場合。
- (2) 貯水槽先の設備故障により漏水した場合。
- (3) 給水装置の操作不良により漏水した場合。
- (4) 使用者等が漏水の事実を認めながら修繕を怠った場合。
- (5) 使用者等の都合で修繕を延期した場合。
- (6) 給水装置の老朽化等により故障が続出しているにも係わらず、使用者等が給水装置の改造工事に応じない場合。
- (7) 漏水の修繕を天理市指定給水装置工事事業者以外で行った場合（水道法施行規則（昭和32年厚生省令第45号）第13条に規定する給水装置の軽微な変更は除く。）。

【特別の事情による軽減】（要綱第8条）

管理者が特別の事情があると認めるときは、第5条に係らず使用水量を認定することができる。